
会心の笑み

鈴木フラグ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

会心の笑み

【Nコード】

N3294H

【作者名】

鈴木フラグ

【あらすじ】

人生には真正正銘の本質的な価値などない。ただ、欲望と幻影によって動きつつづけるだけだ。

花の束を抱えた少女一人

深い闇の中、肩を震わせながら歩いている。季節は、冬なのだろうか。あたりは暗く、少女を除いて道を歩く人はいない。

枯れかけの花たち

おそらく、花屋からタダ同然で譲り受けたのだろう。そんな背景が浮かび上がってしまうような、精気のなさ。少女と同じくみな俯いて、足元の石畳の道を睨みつける。

ふと、あることに気付いた。

この季節は冬ではない

冬を迎える前に、この国から飛び立って南へ行ってしまう鳥の声が聞こえたのだ。

彼女がワナワナと小刻みに肩を震わせ続けているから、寒いのかと思っていた。

寒くもないのに、震え続ける肩

彼女は口元を歪め、嘲るような笑みを浮かべながら、泣いていた。

救い難い笑い

彼女は悟ってしまったのだろう。「この世」、それが呵責なき、絶望の砂漠だということを。

彼女はふらふらとした足取りで、町の中心にある橋へとやってきた。教会の前の橋で、聖人の名前が付いている。

彼女はちらと教会を見上げ、そしてあらん限りの力をもって、針

のような叫びを町中に轟かせた。意味のある言葉ではない。ただ、彼女の絶望が彼女の小さい体に収まりきれなくなり、噴出してきたものだった。

困窮による自殺、ありふれた死因である。

このような事態に対し、教養ある、あるいはなくても、大人が言うことは一つだ。

曰く

「人生は長いマラソンのようなものだ。道中何度も続けるには辛過ぎると感じるような難所があるだろう。けれど、それを乗り越えた先、必ず満足と歓喜と解放感に満ちたゴールが待っている。だから、早まっちゃいけない。」

人生をマラソンに例えるならば、ゴールは「死」なのではないだろうか？

そして、大海へ注ぐ河の中を漂う彼女の顔は、歓喜と幸福と解放感に満ちた、会心の笑みを浮かべていた……

(後書き)

初登校です。どうぞよろしくお願いします。

ちなみにこれは途中で詰まってしまった小説のプロローグ部分だったりします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3294h/>

会心の笑み

2010年11月4日01時35分発行